

4/5 (月) 道の駅伊達の郷りょうぜん 入場者 400 万人を達成

道の駅伊達の郷りょうぜん ceremony

400万人目の入場者となったのは、霊山町の酒井里子さん、千夏さん家族と、おいの大槻征也さんです。記念セレモニーでは、須田市長から旬なイチゴや伊達鶏の詰め合わせなど伊達市の特産品が贈られました。酒井さんは「パンや野菜の購入にいつも利用しています。知り合いの生産者が多いので安心でき、とてもおいしいです。」と笑顔で話しました。平成30年3月24日のオープン以来、3年での達成となりました。



4/6 (火) 期待に胸をふくらませ 市内小中学校で入学式

保原小学校 ceremony

保原小学校では89人が入学し、保護者が見守る中、堂々とした様子で入場しました。堀部誠校長は「少しのことで諦めない“頑張りの花”、友達の気持ちを考えられる“優しさの花”、この2つの花を心の中に大きく咲かせましょう。」と述べ、入学生を歓迎しました。続いて、新1年生を代表して赤井奏仁さんが教科書を受け取りました。今年度は小学校407人、中学校410人がそれぞれ入学し、新たな学校生活が始まりました。



3/28 (日) スタートラインに立つ 土地区画整理事業協定書調印式

伊達市役所 agreement

伊達市堂ノ内地区土地区画整理事業協定書調印式が、シルクホールで行われました。式では、伊達市堂ノ内地区土地区画整理組合の直江市治理事長、イオンモール株式会社の岩村康次代表取締役社長、須田市長が互いの役割を記した協定書に調印を行いました。市はこの協定書に基づき、土地区画整理組合に対して、事務的・技術的支援を行うとともに、イオンモール(株)と連携して県北地域の振興策の提案を行います。



4/1 (木) 地域に新しい風を 地域おこし支援員に辞令を交付

伊達市役所 ceremony

活動3年目の浜田和彦支援員(大石地区担当)、2年目の小林朗子支援員(布川地区担当)、新たに着任した佐藤紅里支援員(富成地区担当)に辞令書が手渡されました。市長は「地域の人とのコミュニケーションを通して魅力を見つけてください。」と激励しました。新任の佐藤さんは学生時代に農業専門学校で果樹を専攻したことから農業に興味を持っていて、「より良いまちづくりのために、一生懸命活動したい。」と語りました。



3/26 (金) 復興の思い乗せ全国つなぐ 聖火リレーに伊達市ランナー参加

福島市 event

3月25日～27日、東京オリンピックパラリンピックの聖火が福島県内を走り抜けました。伊達市からは、福島県選出ランナーで、視覚に障がいを持つ齋藤正昭さんらが参加し、聖火をつなぎました。齋藤さんは「1年待った分余計に楽しく、夢見心地の時間でした。五輪をきっかけにあらゆる人が共に暮らせる社会を実現する機会が高まってほしいです。」と語りました。全国を巡る聖火は7月23日に東京都庁でゴールを迎えます。



3/26 (金) チャレンジ! まずやってみるゼミナール

伊達市役所 event

これから起業したい人に向けた講演会が市役所シルクホールで開催されました。東北各地で起業家支援プロジェクトを実施している菅野永さん(MAKOTO WILL 代表取締役)が講師を務めました。菅野さんは、参加者同士話し合う時間を設け、起業に必要な6つのステップを説明しました。また、話すこと対話することの大切さを伝え、情熱と冷静さを持つよう話しました。参加者は起業のための気づきを得た様子でした。



3/19 (金) ふくしまベンチャーアワード 2020 最優秀賞受賞を報告

伊達市役所 ceremony

新しいビジネスへの挑戦や地域の課題に取り組むチャレンジ精神あふれる起業家を、福島県が表彰する「ふくしまベンチャーアワード2020」において、株式会社リビングロボット(伊達市坂ノ下)が最優秀賞を受賞し、須田市長に報告しました。代表取締役社長の川内さんは「伊達市の皆さんのサポートで受賞できました。」と謝意を述べ、白井木工所の製造する組子細工のパネルを用いたオリジナルの脱臭機を寄付しました。



3/23 (火) 大石小学校 148 年の歴史に幕 閉校式と卒業式

大石小学校 ceremony

閉校式では二瓶匡弘校長が「大石小で学んだことに誇りをもち、感謝の気持ちを忘れず皆さんの宝島に向かってください。」とはなむけの言葉を送りました。12人の全校児童が掛け合いながら発表した別れの言葉では、卒業生が涙を拭いながら「大石の心をずっと忘れず大切にしていきます。」と誓い、締めくりにふさわしい立派な式になりました。卒業生は4月から霊山中で、在校生は掛田小学校で新たな学校生活のスタートを切りました。

